Ｒ４．８．９
第１号
通巻１５６号

学院通信

発　行
金光教学院
719-0111
岡山県浅口市
金光町大谷 1486
TEL(0865)42-3115
FAX(0865)42-3114

聖蹟巡拝（泉勝院）

「神様との対話を通して」

金光教学院長　大代（おおしろ）　信治（しんじ）

令和四年五月十五日、新たな学院本科生を迎えて新年度が始まり、六月には特科生も迎えました。教祖様のご信心に始まるご縁につながり、教主金光様の御取次、ご祈念を賜わり、保証教会長先生はじめご関係各位の祈りの中、自ら願いを立てて共にこの学院にお引き寄せを頂きました。

「終生道の御用に立たしめ給わんことを祈りまつる」との「祈願」を奉唱し、本部広前の修行生として、一人ひとりが神様との関わりを確かにしていく学院での生活が始まりました。

修行は仲間と共にはするのですが、自らの心が神様に向かうことこそが大切です。目や耳に入る様々なことがらを通して自分の心の動きを見つめることになり、その目や耳を問う良い機会ともなります。自分が未熟であるとか、できていないということではなく、神様は私に何を伝え、わかってもらいたいと願ってくださっているか、そうした神様との対話を通して、心の行ともなっていくのだと思います。

教主金光様は、本科生の入学にあたり、「どうぞ皆さん学院生活の中で、ここまでに受けたおかげを思い返してみてください。本部広前の修行生として、私も皆さんとともどもに、ここからのおかげをこうむらせて頂きたいと思っております」とおっしゃいました。金光様も共に取り組んでくださるとのお言葉です。神様からの縦軸を確かにするため、お礼を土台におかげの意味を求め、神様に心を向け、神様の願いに生きる日々でありたいと願っています。

時代や社会は混沌とし、人々の不安や孤独も強く感じます。いよいよ「神人の道」が一人ひとりの生活に現わされ、世界の平和と人類の助かりのお役に立たせていただけるよう、教師という生き方を求めて学院修行に取り組ませていただきたいと願っています。多くの先輩方から受け継いできた道の大切なところを、自らのいのちにいただき、次代へとつながっていくかけがえのない場のありがたさ、尊さを感じています。

学院修行について

学院次長　秦（はた）　浩治（こうじ）

五月十五日の入学式から、早くも三カ月近くが経ち、本日、九名の本科生と共々に夏期在籍教会実習出発式を迎えさせていただきました。

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染予防のため、保証教会長先生のご指導の下、入学前から二週間の間、不要不急の外出を控えていただき、検温をはじめとした体調管理に、ご留意いただきました。

入学式前日の入寮式では、教師を志す本科生が一同に会し、ここから始まる寮生活についての説明を受け、入学式では「終生道の御用に立たしめ給わんことを願いまつる」との「祈願」を唱え、学院での修行生活が始まりました。入学から十日間の信行輔導期間は、前年度の学院生である五名のＯＢから指導を受けて、ご祈念やお届けの作法、洒掃の仕方や食堂での食事の支度などの御用に当たります。初めて黒衣に袖を通す学院生もいる中、下駄の音を響かせながら全員が黒衣に身を包み、本部広前に参拝する姿は、とても晴れ晴れしく見え、第一歩を踏み出した学院生の修行成就を心からお祈りさせていただきました。信行輔導期間が終わる日には、お世話になったＯＢへ、感謝の気持ちを込めてお別れの会を学院広前で行いました。本科生が企画を考え、心のこもったお礼の言葉をＯＢに贈り、ＯＢも大変感激されていました。学院での修行は、いろんな方のお世話になり、起こってくる様々な事柄を通して神様の働きを感じさせていただきます。このことは、ご霊地のお徳と、全教のお祈り添えがあってのことだと改めて思わせていただいております。

六月十五日には特科生七名が入学され、学院生は一カ月の間、十六名となりました。本科生は自分たちがＯＢのお世話になったことへのお礼の気持ちを込めて、今度は特科生にそれまで教わったことを丁寧に伝えてくれました。特科生は、一カ月の限られた修行期間で、取り組む課題も多く、忙しい日々を過ごします。そのような中でも、本科生と触れ合い、いろんな話をしていく中で親交を深めて、有意義な期間を過ごすことができました。特科生七名のうち一名は体調不良のため休学となりましたが、六名は七月十五日に卒業式を迎えられました。前日には本科生によるお別れの会が催され、互いに別れを惜しみました。一カ月の修行生活を通して、共々に修行成就、御用成就を願い合っていくことができる同期生としての絆ができたのではないと思います。

消防・避難訓練

本科生は来年一月四日までを前期として、「神に心を向ける」を信行目標として取り組んでいます。一人ひとりが日々の修行の中で、あらゆる事柄を通して、神様に心を向けていく稽古に励み、お育てをいただいておりますことは、教主金光様をはじめ、皆様方のお祈りを賜ってことであり、ここからも皆様と共々に修行成就を祈らせていただきたいと思います。

講義科目・担当者

教会・布教科目	教団科目	教祖・教義科目	信修科目
結界取次 教会活動（各種活動） 礼典（祭式） 礼典（祭詞）	教制 教団史 教団活動	教祖 教義	本教概説
金原　光三 安部　美雄 仁科明日児 田中　照彦	三好　光一 加藤　実 野谷　雄輝	佐藤　光貴 秦　浩治	大代　信治

人事異動

・主事西川道子、令和三年八月三十一日付で辞任。
・教師・田義子、同西川道子、九月一日付で臨時御用奉仕に任命。
・書記須嵜元道、同日吉祐里、十二月一日付で助手に任命。
・臨時御用奉仕・田義子、同西川道子、令和四年四月十五日付で辞任。
・学院長高橋寛志、次長坂口光正、四月十九日付で任期満了。
・教師大代信治、四月二十日付で学院長に任命。
・教師秦浩治、四月二十日付で講師、次長に任命。
・主事森本祐二、四月二十日付で広前部へ異動。
・教徒宮本保子、五月七日付で書記に任命。
・講師笠井佳実子、五月十三日付で辞任。
・信徒村上暁子、六月一日付で臨時御用奉仕に任命。

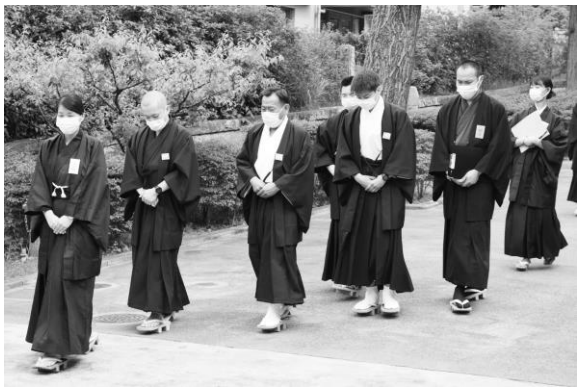
ここまでの歩み

■信行輔導期間

学院では、学院生活の基本日課を習得し、ここから始まる修行の土台を築くために十日間の信行輔導期間を設定している。前年度の卒業生であるＯＢから、奉仕・待命・炊事・洒掃を中心とした生活全般の指導を受けた。本年度の本科生九名は慣れない黒衣に身を包み、ＯＢの言動に意識を集中させ、修行生としての在り方を学んだ。ＯＢの行き届いた指導により、十一カ月の学院修行の基礎が出来上がり、新年度が始まった。御用に当たっていただいたＯＢの方々には改めて御礼を申し上げたい。

本年度のＯＢは以下の通り。（敬称略）

栗野知嘉（大分・野上）
四方清志（大阪・池田）
高橋芙美（岡山・六条院）
髙阪　舞（三重・伊勢）
井上　幸（滋賀・湖北）



信行輔導期間（参拝）

■聖蹟巡拝（ご生家方面、木綿崎山方面）

聖蹟巡拝は、教祖様ゆかりの地を訪れ、教祖事蹟への理解を深めることを願いとして実施している。

六月二十日には、本科生・特科生合同で教祖様のご生家方面へ赴いた。往路では大谷の荒神社、早馬神社、西側の墓地（金光家遠祖歴世親族家族之奥城）などを巡り、ご生家まで歩いた。ご当主・香取航師から教祖様にまつわる話を伺い、教祖様直筆の神名書付、天地書附など貴重な品々を拝見させていただいた。そして復路では、教祖様の実父である十平様が幼少の教祖様を背負って参ったとされる泉勝院を参拝し、ご住職の修行時代の貴重なお話を拝聴させていただいた。その後、占見村の氏神である大宮神社へも参拝し、拝殿にて昼食をいただき、帰院した。

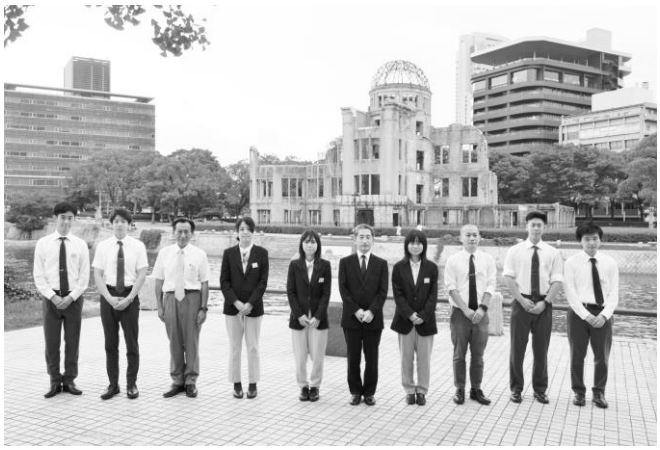
また、六月十八日には特科生が、七月八日には本科生が三グループに分かれて、教祖奥城や立教聖場、歴代教主奥城をはじめ、小野邸跡や絵師迫墓地など、木綿崎山周辺の聖蹟を巡った。学院生は大谷村、占見村の聖蹟を興味深く巡拝し、教祖様の時代に思いを馳せていた。今秋には、西大寺観音院、吉備津神社、鞆津祇園宮等を訪問する予定である。

■平和学習

学院では、世界真の平和達成の祈りを新たにし、具体的な取り組みにつながることを願って、平和学習を実施している。

七月十六日の平和学習当日には、広島平和記念公園を訪れて、公園内の慰霊碑を巡拝した。学院生は、この日に向けて平和への祈りを込めて折った千羽鶴を原爆の子の像へお供えし、原爆供養塔では、原爆で亡くなられた多くの霊様を偲んで、祖先賛詞を奉唱した。その後、被爆体験談を拝聴し、平和記念資料館の見学をした。そして、午後からは、金光教広島平和集会（原爆死没者慰霊碑参拝式、被爆のどん底から、原爆死没者慰霊祭、金光学園中学生による平和学習の発表）に参加した。

戦後七十七年の時を経て、ヒロシマの地に立った学院生は、被爆体験者の話や、当時の様相を物語る資料に触れ、戦争の恐ろしさ、核兵器がもたらした悲惨さを感じると共に、そのことを後世に正しく伝えていくこと、信仰者として霊様の立ち行きと世界の平和を祈り続けていくことの大切さを感じたようである。



平和学習（広島平和記念公園）

■文化活動

学院では、教師としての基礎的素養を身につけ、深い人格形成に資することを願いとして、文化活動を設定しており、学院生は、典楽、茶道、書道いずれかを選択し、毎週水曜日の午後に実施している。

典楽／五名

本年度は、箏一名、笙一名、龍笛三名が選択しており、金光教典楽会より金光あかり師・岡田信義師を講師に迎えて、毎週稽古に励んでいる。初めて楽器に触れる者も多い中、お互いにコツを教え合い刺激を受けながら、秋に学院広前で執り行われる霊祭、大祭の奏楽の御用のため、一音一音に真心を込め、神様、霊様に喜んでいただけるよう練習を積み重ねている。

茶道／三名

茶道では、金光健子師を講師に迎えて、藪ノ内の流派を学び、稽古に励んでいる。

日本の美しい四季を道具やお菓子で表し、その時季でしか感じることのできない空間や香り、味などを楽しみながら、感性を磨いている。

お茶の世界には「客は亭主となり、亭主は客となる」という言葉があり、「どちらか一方が受け手になるのでなく、互いに思いやり厚意に感謝するのが大切である」という茶道の“おもてなしの心”を学んでいる。秋に開催されるお茶会に向けて、最高の「おもてなし」が出来るよう、引き続き、精進していきたい。

書道／一名

書道は、坂口善雄師にご指導を頂き、先生の書かれたお手本をもとに、稽古に励んでいる。一文字一文字はもとより、全体のバランスに気を配りながら、稽古をしている。先生のご指導により、上達している様子が伺うことができ、大変ありがたい。

本年も、生神金光大神大祭に合わせて学院書華道展を開催させていただき、それぞれが思いを込めた字を書した半切を展示する。また学院合同茶会では色紙に好きな字を書いて披露する予定である。今後とも先生のご指導を仰ぎ、稽古に勤しんでいきたいと願っている。

日程（夏期在籍教会実習まで）

5月
- 14 本科入寮式
- 15 本科入学式
- 15～23 信行輔導期間
- 24～6/1 実践課題設定週間
- 25 大掃除（畳上げ）
- 27 授業開始

6月
- 1 第一回求道の日
- 2 消防・避難訓練
- 3 図書館見学
- 8 文化活動開始（毎週水曜日）
- 9～13 教団独立記念祭御用奉仕
- 14 特科入寮式
- 15 特科入学式
- 18 聖蹟巡拝（特科・木綿崎山周辺）
- 20 聖蹟巡拝（ご生家方面）
- 28～30 特科教話実習

7月
- 1 第二回求道の日
- 7 学院長寮内巡回
- 8 聖蹟巡拝（本科・木綿崎山周辺）
- 15 特科卒業証書授与式
- 16 平和学習
- 18 第一回部屋替え
- 25～27 第一回定期考査

8月
- 1 第一信心レポート懇談
- 3～8 少年少女全国大会御用奉仕
- 9～31 夏期在籍教会実習

特科生卒業

六月十五日に入学した特科生は、一カ月間に及ぶ学院修行を進め、七月十五日に六名が卒業した。

学行では、教典ゼミ・祭式・祭詞等などを受講し、信行では本科生の班に加って、参拝、洒掃、炊事等を行じ、奉仕のお役にも当たった。それぞれが、修行に取り組み、教師としての基礎的素養を習得し、御霊地のお徳を頂いて、ここから御用に立たせていただく心構えができたようである。

また、先に入学をした本科生と互いに磨き合うことができたことは、大変ありがたいことである。ここからの御用成就を祈念する。

特科卒業証書授与式

学院生活で思うこと

岡山県・備前矢田教会
森本（もりもと）　明倫（あきみち）

六月十四日に特科生として入寮をし、初めての夜の御祈念、一カ月前に入学している本科生の作法や振る舞いを見て、これを毎日続けられるのかと不安でした。しかし、不安な気持ちの私を、本科生の方々の思いやりが救ってくださいました。本科生の方々は、わからないことだらけの特科生に対してひとつひとつ親切に教えてくださいました。それでも、なかなか覚えられず苦労もし、何回も聞き直すこともありましたが、本科生の方々は根気よく教えて下さりました。そんな本科生の方々の姿勢に信心を感じさせてもらい、感動しました。そういう本科生の方々と一緒に修行できたことは大変ありがたい経験でした。

入寮式の日に梅雨入りの発表があったと思うと、あまりにも早い梅雨明けの宣言があって、毎日暑い日が続き、夕参拝の時など大変でした。いろいろなことがあった学院生活での経験を生かして、今後の教会御用に取り組み、神様と共に歩んでいきたいと思います。

本科生の方々には健康に十分注意し、来春の全員揃っての卒業をお祈り致します。

学院生活の楽しさを感じて

佐賀県・白石教会
原田（はらだ）　五月（さつき）

一カ月の修行生活を素敵な仲間と共に楽しく過ごさせていただけたましたこと感謝申し上げます。今年は最短の梅雨となり、雨に遭うことも少なかったですが、気温が高い日が続きました。そのような中を、扇風機や冷房のお世話にもなって、一カ月間修行をさせていただきました。

振り返りますと、御祈念、洒掃、学行、食事や寮での時間など、楽しい、美味しいと思うこともあり、また暑い、痛い、つらいと感じることもありましたが、全てが有難い思い出となりました。ご霊地でしか味わえない経験を沢山させていただきました。金光様ありがとうございます。

私達は、これから在籍教会へ戻り、この一カ月で学ばせていただいたことを元にさらに信心を進ませていただけるよう、精進させていただきたいと願っています。私自身がおかげを頂いて、この道に進ませてもらえたことを思い返しながら、人が助かる金光教をもっと多くの人に伝えていけるよう、何事にも祈りを忘れず、心を込め、取り組んでいきたいと願っています。

授業風景（祭式）

特科教話実習

学院生の声！

気付かされる日々

広島県・横川教会
山本（やまもと）　道登（みちと）

学院に入学させていただき、約三カ月が経ちます。例年より少ないとされる本科生九名ですが、各々が役割を理解し、助け合い、先生方の手厚いご尽力の下、充実した修行生活を送らせていただいております。

私は教会で生まれ育ち、教師として在籍教会で御用をするために、とにかく新しいことを学ばせていただこうと思い取り組んでいました。しかし、金光様のお膝元で修行を重ねていく中で、今まで受けていたおかげに気付かされることが多くありました。さらに、毎日の課業や本部広前参拝、それに加えて、様々な問題が起こる中で、今まで何度も聞いてきたみ教えやお言葉が思い起こされ、その意味を実感することができました。これは学院生活の中でこそ経験できるものであり、神様の御働きによって気付かせていただいたものであると思います。

「おかげの中で生かされている」私達がこれから続く学院生活の中で日々頂いているおかげに気付き、神様に心を向けられるよう、修行生活を精進してまいりたいと思います。

聖蹟巡拝（木綿崎山周辺）

神様と共に生きる見方

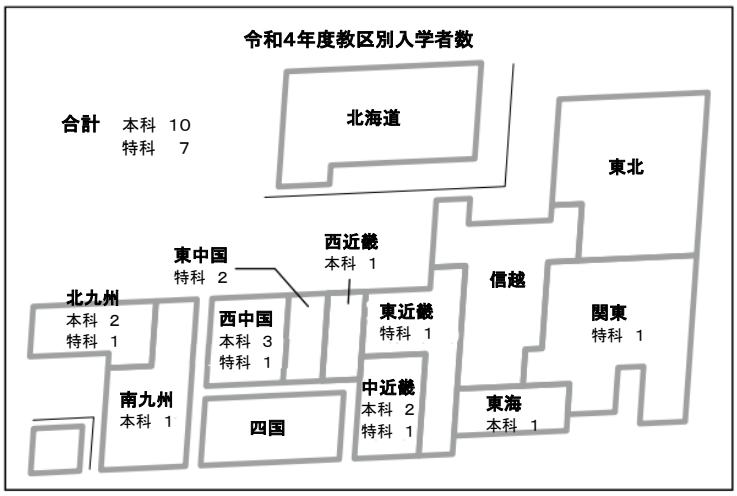
静岡県・静岡教会
岩崎（いわさき）　結（ゆい）

本年度学院に入学させていただき、早くも約三カ月が経ちました。年齢も学院に入学する前の経歴も異なる九人が同期となり、寮生活を通して、神様と向き合い、繋がっていく修行をさせていただいています。

学院の日課は、朝早くから分刻みで参拝や課業などが組まれています。また、その日ごとに奉仕や待命当直などのお役にあたり、起きる時間や洒掃する場所が毎日異なるので、最初は混乱しました。さらに、本年度の女子は三名と少なく、互いに協力していかなければならない状況が多々あります。だからこそ、三名の結束は強くなり、切磋琢磨しながらここまで修行をさせていただいております。

私自身は、学院での修行を通して、自分の中のものの見方が変わってきたように感じます。今までの自分の価値観や優先順位で見ると、無駄だと思ってしまうことでも、神様に向かって見てみると、これから私が神様と共に生きていく上で必要なことだと気付かせていただき、学ばせていただいています。それがとても嬉しく感じます。

まだまだ修行は続きますが、同期生と共に神様に向かい、自分がどのように変わっていくのか、楽しみながら修行させていただきたいです。



大掃除
（畳上げ）

学院長
寮内巡回